

准看護師と看護師の違いもしりませんでした。ただ、とにかく勉強はとても楽しかった。苦手な技術は娘と同年代のクラスメイト達に教わりました。



(プロフィール)

八代比呂子 氏

所属 幸手看護専門学校 第二学科 学科長

勤続 9年目

卒業校 幸手看護専門学校 卒業

上尾中央看護専門学校 卒業

白岡中央総合病院 内科勤務

専任教員養成講習(都内で受講)

幸手看護専門学校 入職

第二学科 学科長として現在にいたる

40歳を過ぎてから看護の道に入り、娘さんと同年代のクラスメイトたちと互いに助け合いながら准看護師・看護師へと進まれ、現在では看護教育の現場で活躍されている八代さんのこれまでにについて伺いました。

—看護師を志したきっかけはありますか

短期大学を卒業して、結婚後は主婦になりました。子どもたちを育てながら、ピースパーツで手芸をしたり、スイミングに通ったりと趣味を楽しんでいました。

そんな時、看護師であったスイミング仲間から「時間があるなら働かない？」と誘われました。

こうして、近所の小児病院で看護補助のような形で働くことになりました。その病院は本校(幸手看護専門学校)の実習を受け入れていました。

働き始めたのですが、わからないこと、大変なことがいくつもあった私は、准看護師という資格があることを知り、チャレンジすることに決めました。

この時すでに40歳を過ぎていました。この頃は看護についてほとんど何も知らず、准看護師と看護師の違いについて入学してから知ったくらいでした。

—准看護師の資格を取得した後に進学を選んだ理由はありますか

准看護学校を卒業した際、夫から資格を取ったのだから働いてみたらいいのではないかという促しがありました。しかし、その時点では現場に出る自信がありませんでした。迷っていた私に対して、自分たちも進路の選択時期にあった息子や娘が進学することを応援してくれました。

当時、幸手看護専門学校には第二学科がなかったので、上尾中央看護専門学校へ進学しました。進学に際しては、学内の学費援助の制度を利用しました。

学ぶことが楽しくて、進学のための勉強に特段の苦労はありませんでした。

—進学してからの生活はいかがでしたか

先ほども申し上げたとおり、私はどちらかというと座学が得意でした。一方で、技能の習得に苦手意識がありました。バイタルサイン測定や清拭について患者さんへの声のかけ方なども含めてクラスメイトが教えてくれました。

クラスメイト達は娘と同年代で文字どおり親子ほどの年の差がありましたが、座学は私が、技能は彼女たちが教えるなど、互いに支え合って充実した学校生活を過ごすことができました。

一看護師資格を取得され、白岡中央総合病院に入職されました

内科に配属されました。透析を受けている患者さんが多い病棟で2交代勤務、夜勤ありでした。夜勤は、やはり体力的にはきつかったです。それでも、日勤とは異なる時間の流れの中で患者さんの看護にあたることができました。また、先輩に日常では時間に追われてできないような質問をすることができたことが貴重な時間になりました。私にとっては、夜勤は大切な時間だという側面もありました。

一看護教員の道を選ばれました

看護師となり4年目が過ぎて5年目が見えてきた時に、専門看護師や認定看護師などの可能性について検討を始めました。

時を同じくして、専門学校時代にお世話になった先生から「新しい学校を作るから見学にこない？」というご連絡をいただきました。時間をみつけて見学させていただいた後、看護教員の道について熱心なお誘いがありました。恐れ多い気持ちが先行していましたが、「学ぶことが多くある」「学ぶ時間もとれる」という言葉に惹かれ、教員の道に入る決意をしました。

教員になった当初は、暗中模索・試行錯誤の連続でした。授業法も手探りで、自信を持つという状態には遠かったです。もがきながら、先輩教員の方に学び、学生の皆さんの反応にヒントをもらいながら少しずつ形にしていきました。授業が終わった後で、学生さんが「先生、今日の単元とっても分かりやすかった」と顔を輝かせてくれることがとても嬉しく、励みになっていました。

今は、学科長という立場におります。目の前で悩んでいた学生さんが壁を乗り越えていく様や、実習の引率時に卒業生が現場で活躍する姿を見ることが誇らしく、何よりのやりがいだと感じています。

一看護師を目指している皆さんにメッセージをお願いします

准看護学校に通う学生の皆さん、看護師を目指して頑張っている准看護師の皆さんには、心よりエールを送りたいと思います。

40歳を過ぎてから看護の道に入った私は大変不器用でした。技術の面では苦勞もしました。しかし、それでも一生懸命努力をしていると誰かがみつけてくれて応援してくれました。

前向きに頑張っている人のことは、必ず誰かが見ていてくれます。困った時に助けてくれる人が現れます。様々な困難があるかとは思いますが、どうぞ諦めることなく、看護の道を進んでください。

私も教員は、そんな人を応援していきたいと思っています。

(聞き手:看護を考える委員会 委員長 柿澤由紀子)



卒業生が母校の教員となり後輩を育てる姿は理想的と思っています。

看護師を目指すきっかけは様々ですが、努力し諦めなければ結果はついてきます。

日々新しい知識を取り入れ頑張っている八代学科長の今後の活躍に期待しています。

幸手看護専門学校 副校長 平原春美 様